**第１７回（平成２７年度）**

岩手県　　　　　（ブルーベリー、りんご、６次産業化）

　　　　　・

りんご１５０aとブルーベリー３０aを基幹とした大規模果樹専作経営であり、夫婦、父、長男の家族4人と臨時雇用で対応し、地産地消カフェには常時１人を雇用している。

昭和60年に就農後、りんご＋水稲の複合経営から、りんご＋ブルーベリーの果樹専作経営に転換した。ブルーベリーについては、岩手大学の指導のもとで地域の生産者とともに生食向け大玉生産技術を築き上げ、さらに夫婦が地域を牽引してきたこともあって、松本氏が居住する盛岡市は、現在、県内トップレベルのブルーベリー産地に成長している。

りんごは、外観よりも食味を最も重要視し、無袋栽培、化学肥料（窒素）および着果数の制限による健全な樹体管理に努め、特別栽培にも取り組んでいる。黄色系のはるか、県オリジナル「紅いわて」など優良品種も積極的に導入している。

直子氏は、果樹園で地産地消カフェを開業し、農作物の付加価値化や規格外果実の活用など６次産業化を推進し、現在は所得の約4割を加工直売飲食が占め、農業経営の安定化が図られている。女性起業家としても注目を集め、各種の研修会の講師等を務めている。

後継者育成、食育、地域活性化の面でも、県農大生の研修受入の他、地域の若手果樹農業者や非農家の地域住民、地元企業等の協力による「りんご畑deコンサート」を開催し、チャリティー募金を県に寄付するなど積極的に地域貢献をしている。

　（農林水産省生産局長賞を受賞しました）